

植苗紙利用による水稻栽培試験（予報）

清松清高・村上雅二・近藤 信  
(大分県農業試験場)

KIYOMATU, K., MURAKAMI, M. and KONDO, M.  
Studies on the Growing Process of Rice Plant cultivated by Planting  
Paper (shokubyoshi). (Preliminary Report)

水稻の植苗紙による糸植栽培について1962年より試験を行つているのでその結果と今後検討を要すると思われる問題点を報告する。本試験の実施にあたり御指導を賜つた加島場長、田原作物部長に深謝すると共に1963年度水稻関係九州ブロック会議資料より各県の成績を引用させて頂いたことを附記する。

生育及び収量

糸植と慣行移植（以下移植と呼ぶ）の生育経過をホウヨク（普通作）、コシヒカリ（早期作）で比較した結果草丈は初期の差が徐々に少くなり成熟期の程長でホウヨクは5cm程度糸植区が短く、コシヒカリは逆に僅か乍ら長くなつた。主稈葉数もその差が徐々に接近し最終的にホウヨク1.3枚、コシヒカリ0.5枚糸植区が少なくなつているが特に目立つのは莖数の稚移である。移植区に比し糸植区は分けつ旺盛で最高分けつ期も遅れ莖数も200本/m<sup>2</sup>程多い。穂数は100本/m<sup>2</sup>程多いが有効茎歩合が低く無効茎が多い。このことは第1表の分

場並に各県の成績でも一致した傾向である。

わら重では糸植区がやや多い傾向であるが各県の成績では明かでない。粗/わら比では第2表の如く糸植区が低下し非効率な生産がされている。

玄米重も49kg/a当の収量はあつたが移植区の85%に留まつた。これも各県同じ傾向である。

倒伏・早期・普通期の12品種についてみると各品種共1～2階級糸植区の倒伏が多く特に水管理の不備な場合出穂期頃株ぐるみの倒伏が多い、これも各県同様な成績である。

考 察

以上の結果から今後(1)品種ではやや早熟の強短粒で穂の大きいもの。(2)施肥法についても表層基肥重点でなく追肥に相当の重点を移す。(3)適正な畦巾と長期中干的なことを含めた灌漑方法。(4)除草剤の開発と除草体系の確立等の問題点が今後検討を要するものと思われる。

第 1 表 生 育 (1963)

場 所	品 種 名	最高分けつ数(本/m <sup>2</sup> )		同 左		穂 数 (本/m <sup>2</sup> )		有効茎歩合 %	
		糸 植	移 植	比 率 %	比 率 %	糸 植	移 植	糸 植	移 植
大 分 本 場 " 宇 佐 " 久 住 鹿 児 島 福 岡 長 崎	アホア	—	—	—	—	543	360	—	—
	リウリ	857	590	145	—	537	400	63	68
	アヨア	696	—	—	—	462	325	66	—
	農林22	639	420	152	—	339	324	53	77
	農林71	691	405	171	—	383	273	55	67
西海71	497	403	123	—	370	360	74	89	
ホウヨク	—	—	—	—	413	334	—	—	

第 2 表 収 量 (1963)

場 所	品 種 名	わら重 (kg/a)		粗/わら比 (%)		玄米重 (kg/a)		同 左	
		糸 植	移 植	糸 植	移 植	糸 植	移 植	比 率 %	比 率 %
大 分 本 場 " 宇 佐 " 久 住 鹿 児 島 福 岡 長 崎	アホア	91.5	84.1	65	71	48.5	57.2	—	85
	リウリ	85.4	85.1	71	82	49.3	58.0	—	85
	アヨア	87.8	90.9	77	82	53.6	57.4	—	93
	農林22	97.0	96.2	51	56	41.4	40.9	—	101
	農林18	74.3	76.2	—	—	35.3	44.6	—	79
西海71	72.0	85.5	—	—	38.5	51.5	—	75	
ホウヨク	75.0	56.2	62	96	31.8	43.4	—	73	